

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	組織全体の理念を掲げているほか、各ユニットごとに目標を掲げ、日々実践につなげられるように取り組んでいる。	法人全体の理念をもとにユニット毎の目標を掲げており、理念の実践ができるよう、毎朝の朝礼で理念の確認をしています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれた夏祭りへ参加をさせて頂いているほか、町内の防災訓練にも参加をしている。また、年に1回行なわれる施設の夏祭りでは、子供会や地域の方々に声をかけ参加して頂きながら、交流を図っている。	地域の夏祭りに参加したり、事業所の夏祭りにも地域の方や高校生のボランティアから参加していただくなどの交流の機会もあります。中学生の体験学習の受け入れも行うなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問介護員養成研修2級課程の実習生を受け入れているほか、10月には中学生ボランティアの受け入れを計画しており、認知症の人の理解や支援方法について、体験して頂ける場を提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの運営状況や活動状況の報告を行ない、出席者からの意見を頂きながら、話し合いを行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長や民生委員、ご家族代表や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な機会を通じて、市町村担当者と連絡を取るよう心掛け、必要な情報提供を行ないながら協力関係を築けるように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組めるよう職員には計画的に研修や日頃のケアの中で指導を行ないながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、職員の言葉の使い方についても指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、職員の言動に常に注意を払い、原因となる兆候を見逃さないようにしている。また、虐待が看過される事がないよう、計画的に研修を行い、虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度の理解を深める為の研修の機会は持っていない。また、制度の活用が必要となる場合は、関係者と話し合い、適切な支援ができるように努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容の読み合わせを行い、不安や疑問点を確認・説明しながら、理解と納得を頂けるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施して、意見や要望の収集に努めている。また、意見箱を設置しご利用者が利用できるようにしている。寄せられた意見や要望は改善を図り、運営に反映できるように取り組んでいる。	年に1度ご家族へのアンケートを行っているほか、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、夏祭りや運動会などの事業所の行事にはご家族にも参加して頂き、ご家族との交流を図り意見を確認し、反映できるように努めています。	外出行事の際にはご家族にも参加の案内をし、協力関係の構築に繋がれることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織として職員アンケートを実施しているほか、事業所内でも全体会議やユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	法人では職員アンケートも行き、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月のユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統一の評価制度があり、自己と上長による評価を行っている。また、評価結果は職員へ返し、成長へとつなげる仕組みを有している。その他、組織として表彰制度を設け、職員が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では年間の研修計画を作成し、計画的に研修を行っている。また、法人外の研修にも参加し、研修を受ける機会の確保に努め、職員の育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では他ホームとの交流の機会を作り、ネットワーク作りや勉強会を行いながら、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活に対する不安や要望に対しては、話しを聞く時間を十分に設けている。また、ご本人様が話しやすいような雰囲気作りに努め、不安を抱え込まないように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の生活に対する要望や抱えている不安、悩みなどを時間を掛けて十分に話す機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族の意向を確認し、必要としている支援内容をお聞きしている。また、必要に応じて他のサービス利用についての提案を行なっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に家事仕事や買い物を行う中で、利用者様が主体的に取り組む事ができるような環境を作っている。また、利用者様からの暮らしの知恵を借りて、それらを活かす工夫をしている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や行事の様子など、ホーム内での出来事や受診の様子などを電話や手紙で報告し、利用者様の状況を伝えると共に、ご家族様の意見や要望をお聞きしながら、利用者様本人をご家族と共に支えていけるように努めている。	ホームでの活動の様子をまとめた事業所広報を月に1度送付しているほか、担当者がご利用者個別に毎月お手紙と写真を送り、情報を発信しています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚や友人に会いに行かれたり、馴染みの場所へ外出できるように努めている。また、お盆や年末年始などには、ご自宅への帰省など、ご家族様の協力を得て支援できるように努めている。	お孫さんの結婚式に参加したり、自宅の外泊に出かけたり、なじみの美容室に髪を切りに行ったり、スーパーへの買い物に出かけたりと、ご利用者に合わせて今までの関係継続支援に努めています。	職員の異動や退職があった時には、ご家族へ案内されるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係の把握に努め、家事仕事やレクリエーションを行いながら利用者様同士が孤立する事なく関わり合い、共同で活動していけるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて契約終了後も、生活についてのアドバイスや相談を受ける体制を作っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や行動の中から、希望や意向等を把握するように努めている。また、把握が困難な利用者様については、ご家族の思いも含め、ご本人の立場に立った暮らしの希望や意向を検討するように努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議も3カ月に1度開催し、検討の機会としています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご本人やご家族から過去の生活歴や趣味・嗜好などをお聞きし、生活背景の把握に努めている。また、日頃の会話からも利用者様の生活歴や生活習慣などを伺い、把握するように努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても6ヶ月に1度、定期的に情報の更新も行っています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの1日の過ごし方、心身状況を記録に残し、現状の把握に努めている。また、日々の生活を通して、利用者様の有する力の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態の変化やご家族様の要望等に応じて、担当医師の意見も踏まえながら、担当者会議を設けて話し合いを行ない、介護計画を作成している。	モニタリングを3カ月に1度行い、サービス担当者会議には全職員が参加し計画の検討をしており、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月の期間でケアプランの検討を行っています。	サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、計画の検討を一緒に行える機会を検討されることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、日々、利用者様の状態把握に努め、朝礼時の申し送りで情報の共有を図っている。また、介護計画の見直しの際は、個別に作成された介護記録を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう、必要な時は担当者会議を開催し、常に柔軟な支援ができるように取り組んでいる。また、急なご家族との外出や外泊にも柔軟な対応を行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行なわれている行事への参加や、歌などのボランティア訪問、ショッピングセンターへの買い物などを通して地域資源を活用し、利用者様が地域の一員として楽しく暮らす事が出来るように支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族が希望される医療機関への受診を行っており、適切な医療機関への受診支援を行なっている。また、2週間に1度、往診が受けられる体制が整えられている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた資料を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気付いた事や情報を看護師に伝え、相談をしながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族、医療機関の看護師と相談しながら入院中の利用者様の状況把握に努め、早期退院に向けた情報交換を行うなど、医療関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に説明し同意を頂いている。また、加齢に伴う変化等が見られた場合などは、事業所として、できること・できないことを説明し、今後の方針について話し合う機会を設けている。	契約時に事業所の方針を伝え理解を頂いており、事業所で定めた方針のもと、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医と連携し支援しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変や事故発生時に備えて普通救命講習を受講している。また、定期的に講習の再受講を行ったり、社内での研修により、振り返る機会を設けて、実践力を身に付けている。	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。また、毎年12月には誤嚥の対応について研修を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルに沿って、避難訓練の実施を行ない、対応方法を身につけている。また地域との防災組織の協力体制も築かれている。	年に2回事業所にて日中・夜間を想定した避難訓練を行なっているほか、地域の方にも避難訓練の案内を出しており、地域の緊急連絡網も作成されています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人間性を尊重し、決して、プライドを傷つける事のないよう、言葉かけには十分配慮している。また、個人情報の保護については、会議や研修を通じて個人情報の取り扱いに注意するよう努めている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもご利用者に同意を得ています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、ご本人の思いや希望をお聞きしながら、選択できる環境を作り、自己決定できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で動かないよう、入居者様個々の生活のリズムに合わせた支援を行っている。また、一人ひとりのペースを大切に、一日をどう過ごしたいか、コミュニケーションをとりながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のその日の気分に応じた衣類の選択やおしゃれを楽しんで頂けるように支援をしている。また、利用者様の希望に応じて理・美容院等に出かける体制を作っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房にて専任の調理員が食事作りを担当しているが、定期的にユニット内でも利用者様と調理を行い、一緒に食事作りをする事で、食事がより楽しいものになるよう努めている。	ご利用者の能力に応じて野菜の皮むきなども行ってもらっています。また、事業所の畑でもなすや大根などの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の希望に合わせたお蕎麦屋さんやラーメン屋さんへの外食支援も行っています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に調理を行い、その人に合った食事量や食事形態を考慮しながら、栄養バランスに留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。特に嚥下機能低下の利用者様や介助を要する利用者様に対しては、食物残渣がないように注意を払っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを見極め、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。また、排泄の失敗やおむつを使用されている方についてもトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促すように取り組んでいる。	必要な方には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師の指導のもと、便秘を解消する事の重要性を理解し、日中の運動や水分補給を行いながら、便秘の解消・予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や回数にとらわれず、一人ひとりの希望に合わせて、快く入って頂けるような声をかけを行なっている。また、必要に応じて、2人体制での介助を行い一人ひとりに合わせた支援を実施している。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。ご利用者と一緒に誕生日に日帰り温泉に行き、入浴を楽しむ機会もありました。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活スタイルに応じて休息支援を行なっている。また、夜間不眠の際は、温かい物を提供したり、照明を調節するなど安心して休息できる環境を整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿った方法で、一人ひとりに合わせた服薬支援を行なっている。また、処方箋はユニットで保管しており、職員全員が効用や副作用についても確認・理解できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力や得意分野に合わせた役割を持って頂きながら支援を行っている。また、楽しみごとなども、個々に把握するように努め、気分転換して頂けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わって頂けるように、ドライブや外食、散歩などを通じて戸外に出掛けるように支援している。また、本人の希望で買い物へ出掛けたり、ご家族の協力を得て馴染みの場所への外出支援が出来るように支援をしている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、水族館に行ったりもしています。また、季節に合わせたお花見やあじさい見学、高田公園へのはす見学などのイベントとしての外出も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品は事務所内の金庫で保管させて頂いているが、買い物に出かけた際は、お金をお渡しして、使用する事ができるように支援している。また、金銭管理の難しい方でも、職員が付き添い、支払いはご自分で行って頂くなどの支援を行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がご希望された場合には、その都度、電話をかける事ができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節に応じた装飾をする事で、季節感を感じて頂いたり、話題を提供し楽しんで頂けるよう工夫している。また、空調を整え居心地良く過ごさせて頂ける様に取り組んでいる。	共有スペースや廊下には外出や行事のスナップ写真、ご利用者の書いた絵や作品などが貼られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが配置されていると共に、気の合うご利用者同士が、会話を楽しめるように共有スペースの別の一角にテーブルや椅子を配置するなどの工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の環境に近づけるよう、使い慣れた家具や寝具を使用して頂き、落ち着いた気分になれるように支援している。	居室には、ベッドやテレビ、仏壇など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはわかりやすいように、手作りの表札をかけた。建物内部は安全に移動や自立した生活が送れるよう、各所に手すりを設置したり、段差をなくして、安全に過ごす事のできる造りになっている。		